

## 第 14 回 (2020 年度)、第 15 回 (2021 年度)

### 日本母性看護学会学術論文賞

#### 受賞論文筆頭著者コメント

学術論文賞の表彰式は、学術集会時に開催される総会にて執り行っておりましたが、2020年度、2021年度の総会は書面開催となりましたため表彰式が行えませんでしたので、受賞論文の筆頭著者からのコメントの掲載をもって代えさせていただきます。

《第 14 回 (2020 年度) 受賞》
母体・胎児集中治療室 (MFICU) 入院中の切迫早産妊婦への看護 第 1 報 — 看護の実際とアセスメント —
野中悠、大月恵理子、兼宗美幸
この度は学術論文賞に選出いただき、誠に光栄に存じます。臨床の疑問から生まれた今回の研究が実践の場で生きていくことを願うとともに、今後も母性看護の質の向上に貢献できるよう活動して参りたいと思います。

《第 14 回 (2020 年度) 受賞》
授乳場面における産褥早期の褥婦と看護者間のコミュニケーション過程の特徴 ～産褥 1 日目と 3 日目の行動観察とインタビューからの検討～
村井佐知子、島袋香子
このたびは 2020 年度の論文賞にご選出頂き誠にありがとうございました。 ご指導頂いた共著者の先生、査読者の皆様、選考委員の皆様にご心より感謝を申し上げます。 今回の受賞を励みに、母子ケアの質向上に尽力して参りたいと存じます。

《第 15 回 (2021 年度) 受賞》
就労初妊婦における労働生産性とワークエンゲイジメントの特徴 — 非妊娠女性および妊娠時期と雇用形態による比較 —
中村康香、廣田光紀、和田彩、長坂桂子、武石陽子、川尻舞衣子、吉沢豊予子
この度は、論文賞をいただくことになり、光栄に思います。就労の中での妊娠・出産が当たり前となり、女性のキャリア継続ができるよう、エビデンスを蓄積して社会へ還元していきたいと思っております。本研究にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。